―観光・広域連携が発展支える―

西日本各地の経済産業局長に聞く
地域浮揚のポイント

日銀の白川方明総裁は先月15日の政策委員会・金融政策決定会合後の会見で「景気は着実に前進している」と述べた。景気判断を前進させたのは昨年5月以来9カ月ぶり。ここ、西日本でも同時期12月分の経済動向が発表され「横ばい」や「持ち直しの動き」というよい傾向が出てきている。これに新幹線の大阪―鹿児島開通となれば、景気回復を加速するに違いない。そこで各地域の現状や全通によって物理的にも精神的にも身近になった地域同士の連携などを各地域の経産局長に聞いた。

近畿経済産業局長
永塚　誠一氏

マッチング活性化　期待

―近畿経済の現状をどうみていますか。

「昨年12月ベースの指標では横ばいの判断。全国的には上向き感も出てきているが、これはリーマン・ショックで落ち込んだ自動車関連の生産が持ち直し上昇へ転じたため。近畿は自動車の落ち込みが小さかった半面、増え方も小さい。四半期ベースの鉱工業生産は10―12月も7―9月に続きマイナスであり慎重に見た。ただ、先行きもう一段底割れするといった懸念は薄らいできた。悩ましいのは消費で、エコポイントの駆け込み需要や政策要因があって実力を見極めにくい」

―中長期の見通しについては。

「近畿は産業構造的にバランスがとれており、中でも強い産業がどう頑張れるかだ。その一つがリチウムイオン電池や液晶、発光ダイオード（LED）関連などの電子・エネルギー分野で、国の低炭素型雇用創出産業立地推進補助でも2009年度補正予算約300億円のうち60％弱が近畿向け。10年度予備費1100億円のうちでも近畿の案件が件数で約13％を占める。特に電池は情報機器や大型の自動車用など用途が多岐にわたり、近畿の電池や家電メーカーと自動車メーカーが組んで大型投資へ乗り出すケースが多い。すそ野も結構広く、化学関連などで投資も出ている」

「研究機関も充実し、電池研究の第一人者である小久見善八京都大学特任教授などのキーパーソンも多い。SPring―8や建設中のスーパーコンピューターのほか、次世代蓄電池開発、蓄電池材料の性能・特性評価技術など魅力的な新研究・拠点整備も進んでいる」

―九州新幹線全線開通の影響は。

「産業集積の違いはあれ、経済はボーダーレス。自動車工場の多い九州が伸びれば、近畿の素材や部品産業にも波及する。九州新幹線の新型車両は神戸の川崎重工業が製造しているし、大阪―鹿児島間を3時間台で行ける心理的影響は大きい。九州と近畿の企業のビジネスマッチングもより活性化すると期待している」

九州経済産業局長
滝本　徹氏

九州の一体感向上　望む

―九州新幹線への期待を教えて下さい。

「開業で九州の一体感が強まり、関西以西との交流が深まることに期待する。アジアを中心とした海外からの観光客も増えるだろう。九州全体の期待や高揚を感じている」

―九州経済の現況は。

「生産は2010年9月―10月で落ち込んだが、12月―11年1月あたりから持ち直しの動きが見られる。エコカー補助金打ち切りの反動は、各社新車発売で対策を講じた。半導体も12月は少し上向いた。輸出は堅調。消費や雇用も弱いが、持ち直しの動きがある。企業収益が上がっており、投資や消費のプラス循環に期待する。金融政策の効果も出始めている」

―九州の強みと課題は何でしょう。

「アジアに近く賃金も他の地方と比べて安い。モノづくりの新拠点として位置づけは大きい。自動車産業や半導体産業においては先導的な役割だ。一方で中小企業などアジア展開に実績がある企業はまだ少ない。ただ、やる気がある経営者は多い」

―10年12月に「九州成長戦略アクションプラン」を策定しました。

「自動車と電子デバイスだけの1本足打法ではだめだ。アジア展開を中心に基盤をつくる。そのために各県各局の壁を取り払って取り組んだ。輸出産業だけでなく中小企業、農産物、文化、環境、観光などすべての分野に関連する。産学官で連携し、留学生活用やビジネスモデルづくりなどにも挑む。オール九州で強さに磨きをかけるべく、多くの取り組みを実践に移している」

―他地域との連携はどうお考えでしょうか。

「11年1月に近畿経済産業局と連携して、中国の大連市と瀋陽市にミッションを派遣、環境ビジネスマッチングを行った。相乗りすることでコスト面でも効率的だ。今後は関西で先進的な発光ダイオード（LED）や電池分野などで連携していきたい。半導体や自動車を中心に、他地域での展開や連携も図りたい」

直通運転で心理的な距離短縮
経済交流、一段と進む

四国経済産業局長
加藤　元彦氏

〝環瀬戸内海〟で連携を

―四国経済の現状をどう見ていますか。

「自動車関連の大きな工場がないので、他の地域に比べるとリーマン・ショック時の落ち込みが少ない分、持ち直しもうまく進んでいる印象だ。今、景気低迷前の水準と比較すると、回復度合いは6割程度とみている」

「一方、外需に目を向けると、やはり中国などアジア向けは今後への期待感が大きい。製造業の経営者に話を伺うと『これから落ち込む』と考える人は少なく、輸出が増えるとみる人が多い。四国経済産業局の鉱工業生産指数で直近の基調判断を〝横ばい〟としているが、できるだけ早く〝持ち直しの動き〟に変わるようにに期待したい」

―中小企業の景況感については。

「悪化すると考える企業の割合が減少しているが、改善は緩やかと言わざるを得ない。ただ、小粒でも光る企業は、リーマン・ショックも環太平洋連携協定（TPP）も気にせずに、しっかり稼いでいると思う」

―ニッチトップ企業も多いのが特徴です。

「四国には元気ある企業が多い。ただ、その企業は今までに大変な苦労をしているが、それが一社一社の動きでしかないイメージだ。企業も自社だけでなく、四国全体を持ち上げる動きを出すことが必要だ。とがったピークがたくさんあり、全体の山を形成する〝八ケ岳構想〟で、異業種同士の協業を支援したい」

―支援策は。

「次世代を狙う産業を育てることだ。四国の代表的産業に紙が挙げられる。例えば、電池のセパレーター用など、いろんな機能を持つ紙をさまざまな局面で提案したい」

―西日本の他地域との連携面については。

「いかに外とつながるか。ヒト、モノ、カネの行き来を四国外に広げる動きが不可欠。典型例は観光といえる。モノづくりや一般産業でも瀬戸内海は昔からの物流の動脈。環太平洋ならぬ〝還瀬戸内海〟として、近隣のエリア同士がウィン―ウィンの関係を築くことだ」

中国経済産業局長
井辺　國夫氏

ボーダーレス化の〝礎〟

―中国地域経済の現状は。

「円高などの不透明感があったが、地域基幹産業の自動車、化学などがアジアを中心にした海外需要に支えられて、明るさに向けた自信を取り戻しつつある。新しい産業分野などへのニーズも手堅く出てきている。中小企業の資金繰りも実質的に安定している。年度末に向けて、心理的に景気の回復が確実、と思う信頼が重要になってくる。今の流れが定着すれば、年度末は乗り越えることができるとみている」

―成長戦略は着実に進んでいますか。

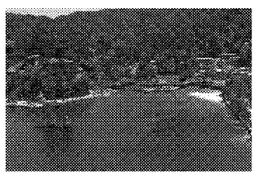
「〝ど真ん中〟中国地域経済活性化プロジェクト2020〝には『成長を支えるものづくり』など4テーマ17プロジェクトを取り上げている。関連産業のすそ野が広い太陽光発電ではコスト、効率性などでの課題解決の取り組みが進んでいる。地域産業に波及効果の大きい自動車も、中長期を見越した自動車産業のあり方などいろいろな角度からの検討を進めている。また、輸出に向き合うことも広い意味での海外展開。工業製品に限らず、地域の特産品を海外に販売するための相談会やセミナーにも力をいれるなど、順調に進展している」

―近畿や九州との連携は。

「自動車や化学など業種は同じでも、中国も九州もそれぞれに得意分野を持っている。地域の特徴も含めて、いい形で連携すれば、伸びる可能性を高め、企業活動がより進むことにもなる。特徴を生かした連携はこれからも支援を強めていきたい。経済分野でのボーダーレス化はどんどん進んでいる。生産拠点、需要地もボーダーレス化している。船舶輸送で見れば、ひとつの港をターゲットにするのではなく、ほかの港を経由、連携することで効果を大きくするなど期待できる。新幹線が九州までシームレスにつながることは、いろいろな面で共有の可能性ができ、典型的なボーダーレス化を支える礎（いしづえ）になる」

広島は“てっぱん”観光スポット!!
（ハズレなし）

●瀬戸内海沿岸、中国山地、各々の風景が魅力
●歴史・文化・自然・食、それぞれで魅了
●春夏秋冬ですべてのリゾートが楽しめる

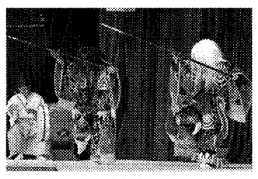


宮島（廿日市）
世界文化遺産・厳島神社。朱塗りの鳥居と青い海、宮島の自然とのコントラストが美しい

お好み焼
広島の県民食と言えるお好み焼は、キャベツをたっぷり使うのが特長。県内にはご当地お好み焼も多数存在する

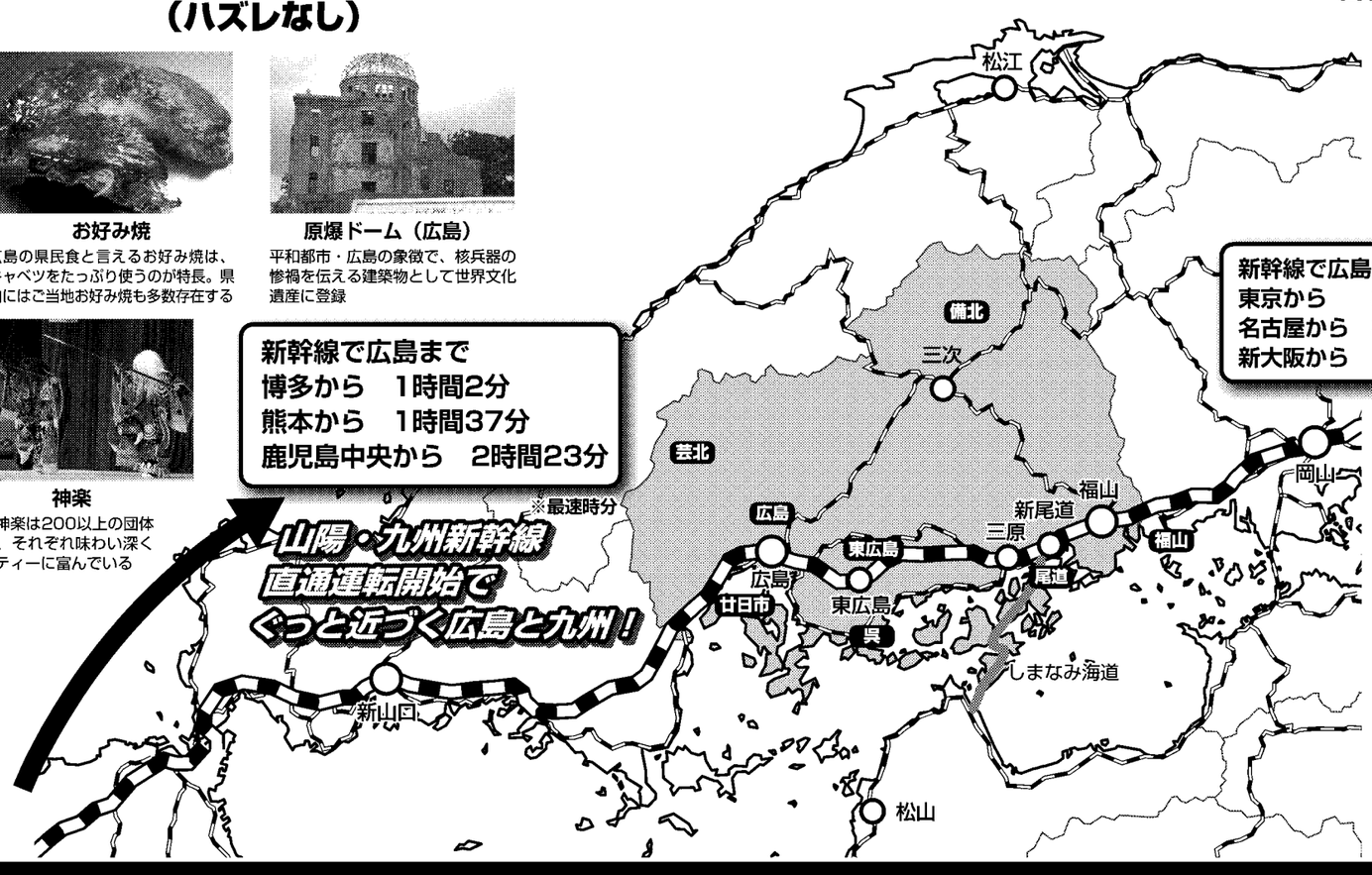
原爆ドーム（広島）
平和都市・広島の象徴で、核兵器の惨禍を伝える建築物として世界文化遺産に登録

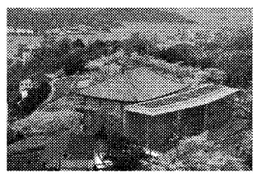
ゲレンデ（芸北・備北）
芸北・備北地域にはウインタースポーツが堪能できるゲレンデが多数ある



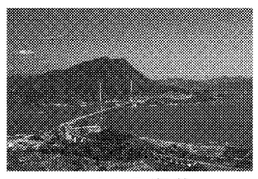
神楽
広島の神楽は200以上の団体があり、それぞれ味わい深くバラエティーに富んでいる

酒蔵通り（東広島）
西条は灘・伏見と並ぶ三大銘醸地の一つ。なまこ壁の蔵と赤レンガの煙突が情緒ある雰囲気を醸し出す

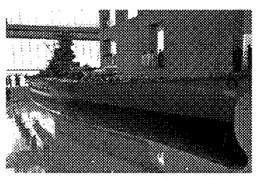




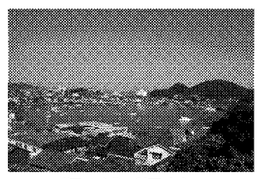
古寺と坂のまち（尾道）
歴史ある古寺が多く点在し、懐かしさあふれるまち並みがひろがる。千光寺公園（写真）は、さくら100選にも選ばれており、一度は食べてみたい尾道ラーメンも人気



しまなみ海道
尾道と愛媛県今治の間の島々を橋でつなぐ“しまなみ海道”は、サイクリングや歴史散策も楽しめる



大和ミュージアム（呉）
造船が盛んな呉で建造された戦艦「大和」の模型（写真）や海事資料などを展示している



鞆の浦（福山）
瀬戸内の景勝“鞆の浦”は万葉集にも詠まれている古くからの潮待ちの港で、北前船で栄えた町並みが残る

それは、西にある。
DISCOVER WEST
えじゃん広島県
広島県観光キャンペーン

瀬戸内キャンペーン連携協議会　TEL 082-513-3389　FAX 082-223-2135